

近代日本の文学（浪漫主義，自然主義，白樺派）

2016 年本試

問 7 文学を通して人格や個性を尊重する活動を展開した人物に武者小路実篤がいる。彼に関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 夏目漱石に師事し，青春の苦悩と思索を <sup>つづ</sup>綴った『三太郎の日記』を著す一方，人格主義を説く哲学者としても活動した。
- ② 既存の道徳に安住することを偽善と批判し，むしろそこから「<sup>お</sup>墮ちきる」ことで偽りのない自己を発見すべきだと主張した。
- ③ 思想や理論を流行の意匠のようにもてあそぶあり方を批判し，批評という独自の方法を用いて主体的な自己の確立を目指した。
- ④ 各自の人間的な成長が人類の文化の発展につながると説き，「新しき村」を創設して，理想の共同体の実現に努めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	26	④	2

2016 年追試

問 8 次のア～ウは、個人のあり方について考えを深めた文学者について説明したものであるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 27

ア イギリス留学の体験から、明治以降の近代化は皮相なものであったと捉えた。日本においては各人の自己確立が不十分であると考え、他者の存在を尊重しつつも、「自己本位」によって生きることを重視した。

イ 自己を取り巻く停滞的な当時の状況を「時代閉塞」と捉え、国家をはじめとする強権へと目を向けることが重要であると主張した。また、大逆事件を契機に、社会主義への関心も深めていった。

ウ 自己の内面的な欲求と社会的な責務という、個人と社会との矛盾に苦悩した。この矛盾を統一するあり方として、自己の使命や責務を冷静に引き受ける、「レジグナチオン(諦め)」の境地を見いだした。

- |   |   |       |   |      |   |      |
|---|---|-------|---|------|---|------|
| ① | ア | 国木田独歩 | イ | 石川啄木 | ウ | 志賀直哉 |
| ② | ア | 国木田独歩 | イ | 石川啄木 | ウ | 森鷗外  |
| ③ | ア | 国木田独歩 | イ | 北村透谷 | ウ | 志賀直哉 |
| ④ | ア | 国木田独歩 | イ | 北村透谷 | ウ | 森鷗外  |
| ⑤ | ア | 夏目漱石  | イ | 石川啄木 | ウ | 志賀直哉 |
| ⑥ | ア | 夏目漱石  | イ | 石川啄木 | ウ | 森鷗外  |
| ⑦ | ア | 夏目漱石  | イ | 北村透谷 | ウ | 志賀直哉 |
| ⑧ | ア | 夏目漱石  | イ | 北村透谷 | ウ | 森鷗外  |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問8	27	⑥	3

2014 年追試

問 7 次のア～ウは当時の貧しい人々や女性など社会的弱者の問題について考えた人物の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 

26
----

ア 北一輝は、貧しい農民や労働者を救うために、現状を変革し、富が平等に分配されるようにすべきだと訴えた。そのためには、天皇と国民が直結する国家の建設が必要だと考え、『日本改造法案大綱』を著した。

イ 与謝野晶子は、歌人として、自己の感情や官能を大胆に歌い、人間性の解放を主張した。また、「元始、女性は実に太陽であった」と主張し、女性の解放を求める運動を展開した。

ウ 河上肇は、『貧乏物語』を著すなど、貧困への対策の必要を説いた。彼は、内村鑑三やトルストイの影響を受けた人道主義者であったが、後には、次第にマルクス主義的主張に傾斜していった。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	26	③	3

2013 年本試

問 7 日本が近代化するなかで，自己について問うた人物に北村透谷がいる。彼に関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

27
----

- ① 自己とは政治的な世界において実現されるものではなく，具体的な現実を離れ，想世界の充実を通じて内面的に確立されると論じた。このような自己へ至る方法として恋愛を重視した。
- ② 自由民権思想のもと，独立した自己の重要性にめざめ，政治運動に没頭した。そして，文学や芸術を想世界に閉じこもる行為であると批判し，自己の実現は，実世界における実践で確立されると訴えた。
- ③ 自己とは政治的な世界において実現されるものではなく，具体的な現実を離れ，想世界の充実を通じて内面的に確立されると論じた。このような自己へ至る方法として本能を重視した。
- ④ 自由民権思想のもと，独立した自己の重要性にめざめ，政治運動に没頭した。そうした実践を通して，想世界と実世界は一致し，自己の独立が可能になると訴えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	27	①	3

2011 年本試

問 6 近代的自我の確立を唱えた考え方の一つにロマン（浪漫）主義がある。その主張の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

19
----

- ① 旧来の道徳に真に従うために，自然な感情を尊重し，感情のなかに含まれる道徳への志向に基づく自我を確立すべきだと主張した。
- ② 伝統的な権威から離脱し，新たな生活や社会制度のあり方を築くことができる理性的な主体としての自我を確立すべきだと主張した。
- ③ 伝統的な道徳に囚われず，現実をありのままに直視することで，自己の自然なあり方に基づいた自我を確立すべきだと主張した。
- ④ 旧来の社会で必要とされてきた価値観の束縛から脱し，自然な感情や情熱を肯定することを通じて，自我を確立すべきだと主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	④	3

2005 年本試

問 1 文章中の 20 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

北村透谷は、内面の「20」に直観される「内部生命」の発露としての恋愛を、現実の世界に対抗する拠点とした。

- ① 想世界    ② 実世界    ③ 幽冥界    ④ 清浄界

問 5 ロマン主義を説明した記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 旧来の思想や道徳に追従することなく、各々が人間的な感情や善意を生かすことを通じて、理想的な人格を完成させるべきだと主張した。
- ② 伝統的な権威や因習を否定し、個人が理性的な自主独立の主体となることで、新たな生活や社会制度のあり方を築くべきだと主張した。
- ③ 伝統的な道徳や思想に囚われずに、現実をありのままに直視することで、自己の内面の自然なあり方を素直に表出すべきだと主張した。
- ④ 旧来の制度や価値観の束縛から脱し、内面の自然な感情や情熱を肯定することを通じて、自我や個性を尊重し解放すべきだと主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	①	2
第 3 問	問 5	24	④	3